

館山市 情報提供 令和3年10月5日
 教育部 教育総務課（学校教育係）
 担当（副主査）小柴紳一郎
 TEL：0470-22-3694

館山中学校の校歌決定について

令和3年4月に開校した館山中学校の校歌が決定しましたので、お知らせします。

館山中学校校歌 「彩光（ひかり）」

作詞 小林 恭子
作曲 五十嵐 一步

一、 彩（いろ）とりどりの 咲く花に
 蒼空（あおぞら）きらめく 城下町
 花の香りの 海風は
 たくさんの夢 かき集め
 遠い未来へ 運びゆく

二、 透き通るほど 美しく
 水鏡（みなも）を照らす 黄金（こがね）の陽（ひ）
 希望の光 夢叶え
 この地に生まれ 私たち
 願いをつなぎ 飛び立とう

三、 鏡ヶ浦の さざなみに
 優しい波音（なみね）を 響かせて
 未来へ向かう ハーモニー
 暖かな虹 渡つたら
 笑顔奏でる 館山中学校

1 作詞・作曲者 プロフィール

（作曲）五十嵐 一步 氏

1975年 館山市生まれ

1988年 館山市立館山小学校卒業（音楽部）

1991年 館山市立第二中学校卒業（吹奏楽部）

1994年 千葉県立安房高等学校卒業（吹奏楽部）

（大学時代）武蔵野音楽大学 音楽学部 作曲専攻

同大学院 音楽研究科 作曲専攻 修了

（大学卒業後）全音楽譜出版社 勤務

（現在）コーエーテクモゲームス サウンド制作部 勤務

代表ゲームサウンド作品（信長の野望、戦国無双、三国志など）

東京都在住

(作詞) 小林 恭子 氏

1977年 館山市生まれ

1990年 館山市立北条小学校卒業

1993年 館山市立第三中学校卒業 (吹奏楽部)

1996年 千葉県立安房高等学校卒業 (吹奏楽部)

※ 千葉県吹奏楽コンクール金賞受賞

2000年 淑徳大学社会福祉学部卒業

(現在) 館山市内企業勤務

音楽サークルを結成し、高齢者施設やかいごフェスタ等で演奏活動実施

(校歌に込めた思い)

作者が生まれ育った地へ 育てて下さった人たちへの感謝を込めるとともにこの校歌を歌ってもらうことで 子どもたちがいずれ大人になった時にも故郷館山を思い出し 一度は館山から出たとしても またいつか館山に戻ってきたい、もしくは地元愛を持ち続けてくれるようにという願いを込めました。

1番は、昼間の館山の情景 2番は、夕刻の館山の情景

3番は、未来へ向けたメッセージ をイメージしています。

明るく暖かな自然環境への賞揚も含み、優しく歌いやすい校歌を作りました。

子どもからまたその子どもたちへ、代々歌い継がれる校歌になってほしいと思います。

※ 五十嵐氏と小林氏は、高校時代の吹奏楽部の先輩・後輩の間柄で、今回、館山中学校校歌制作において、共同で応募した。

2 選考方法・経緯

① 「館山中学校校歌選定委員会」において選考を実施

委員会は、教育委員会1名(教育長)、学校職員5名(学校長、教頭、音楽担当教諭)、PTA代表3名、外部有識者1名の合計10名の委員で構成

② 選考経緯

- 令和3年5月11日 校歌募集受付開始
- 令和3年6月30日 受付終了 (応募件数: 29件)
- 令和3年7月14日 第1回 館山中学校校歌選定委員会開催
- 令和3年7月14日～7月30日 各委員による一次選考実施

(一次選考方法)

各委員が選考視点(※)に基づき、良いと思う校歌を5～10曲選び、選考人数が多い上位10曲程度を選出する。

- ※ 選考視点
- ① 館山中学校が目指す姿と合致しているか
(「自立」と「共生」～社会の変化に対応し、逞しく生きる生徒の育成～)
 - ② 校歌として、相応しい歌詞・曲調であるか

□ 令和3年8月27日 第2回 館山中学校校歌選定委員会開催

(一次選考結果)

選考人数が5割以上(委員10名のうち、5名が選考)となった5曲を二次選考に選出

(二次選考結果)

- ・ 選考対象5曲を視聴し、各委員からそれぞれの校歌に対する意見聴取を実施
- ・ 各委員からの意見を踏まえ、協議を行い、最終選考に1曲を選出

□ 令和3年8月28日～9月26日 最終選考校歌の微調整

※ 応募者との歌詞及び曲調についての修正協議

□ 令和3年9月27日 第3回館山中学校校歌選定委員会開催

※ 校歌完成

③ 選考理由(各委員の評価)

- ・ (A委員) 軽快で且つ力強さも持ち、完成度が高い。校歌としての安定感がある。歌詞もわかりやすく、生徒たちも生き生きと歌えるのではないかと思う。
- ・ (A委員) 生徒がイメージできるような歌詞で、心から歌えると感じた。
- ・ (B委員) 明るさと若々しさが感じられる。歌詞はもちろんのこと、作曲や編曲の完成度が優れている。
- ・ (A委員, B委員) 若々しさや力強さ、前向きに意欲をかき立てるような曲調が良いと感じた。
- ・ (B委員) 二番と三番の間に間奏があるのが良い。
- ・ (B委員) 歌詞が美しく、言葉と音が繋がっていて良い。
- ・ (B委員, D委員) 校歌を歌う場面をイメージしたとき、歌詞の面でも音楽的な面でも生徒が歌いやすいと思う。
- ・ (C委員) 曲としてのバランス、ストーリー性が良い。全体として評価が高い。
- ・ (E委員) 生徒視点で考えたとき、歌詞が最も良い。
- ・ (F委員) 館山中学校をイメージすることができる歌詞で良いと感じた。
- ・ (G委員) 曲調がとても良く、感動できる校歌と感じた。また、館山の情景が浮かんでくる歌詞であることが良い。
- ・ (H委員) 曲の長さが3分程度だが、軽くなく、重くなく、良い校歌だと感じた。曲の長さが短いと様々な式典で歌うことができると感じた。

3 関係者のコメント

(作曲：五十嵐 一步 氏)

私も、この校歌を作るために、この地に生まれて来たということがわかりました。
偶然起きるということは無く、全ては必然です。

(作詞：小林 恭子 氏)

校歌採用ありがとうございます。母校の、そして子どもたちの通う学校の校歌に選ばれた事、本当に幸せです。

学生時代の繋がりがこの校歌を完成させてくれました。学生時代の友達、先輩は一生の宝です。子どもたちにも、今の友人関係、大切にしていってもらいたいと思います。

校歌，笑顔で歌い奏でて下さい♪

(館山中学校校歌選定委員会：委員長 半澤 美緒子 氏)

このたびは、館山中学校校歌制作にあたり、数多くの方々からご応募いただき大変感謝しております。

選ばれた校歌は館山中学校の生徒さん達が、愛着と親しみ、誇りを持って歌い継がれることを確信しています。

素晴らしい校歌の制作・選定にご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

(館山中学校長)

館山中学校の校歌制作にあたり、とても多くの方からご応募いただき、誠にありがとうございます。

これから社会に出て活躍する子どもたちが、将来にわたり、誇りと希望を持って歌うことができる校歌ができ、制作していただいた五十嵐様、小林様には大変感謝しております。

4 その他

① 生徒の関わりについて

選定については、選考視点に基づき、選考委員が責任を持って選定するべきであると館山中学校校歌選定委員会で決定しました。

(選考視点)

(1) 館山中学校が目指す姿と合致しているか

(「自立」と「共生」～社会の変化に対応し、逞しく生きる生徒の育成～)

(2) 校歌として、相応しい歌詞・曲調であるか

② 選考過程の公表について

選考から校歌完成までの過程において、不測の事態が生じて選出されている校歌が採用されないことが考えられます。

万が一、別の校歌を選定する場合となったときには、次点とされた応募者の気持ちを考慮して、全てが決定した後に公表することを館山中学校校歌選定委員会で決定しました。

なお、応募者の方々への結果については、10月1日付郵送にて通知しました。